

「JENESYS2.0」

2014 年度中国高校生訪日団第 1 陣

訪問日程 平成 26 年 10 月 26 日（日）～11 月 3 日（月）

1 プログラム概要

中国教育部が派遣した 2014 年度中国高校生訪日団第 1 陣計 98 名が、10 月 26 日から 11 月 3 日までの 8 泊 9 日の日程で来日しました。（団長＝蘭栄彦（ラン・エイゲン） 内蒙古集寧一中・副校長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、訪日団は、東京をはじめ、埼玉県、京都府、滋賀県、大阪府を訪問し、「クールジャパン」を含め、さまざまな分野における日本の魅力、強みを体感したほか、東京都、埼玉県、京都府における学校交流や、滋賀県におけるホームビジット等を通じて、日本の高校生や一般市民との友好交流と相互理解を深めました。

2 日程

10 月 26 日（日）

成田国際空港より入国、オリエンテーション

10 月 27 日（月）

高齢化社会におけるロボットの研究開発に関するセミナー、
早稲田大学訪問・ロボット研究室の視察、東京タワー見学、歓迎会

10 月 28 日（火）

環境学習施設・防災学習施設視察（渋谷清掃工場、有明清掃工場、北区防災センター）、
学校交流（東京都立大田桜台高校、東京都立三田高校、埼玉県立伊奈学園総合高校）

10 月 29 日（水）

国会議事堂視察、京都へ移動、金閣寺見学、和風温泉旅館で日本文化体験

10 月 30 日（木）

嵐山見学、日本文化体験（河村能舞台）、京都国際マンガミュージアム視察、
清水寺参観

10 月 31 日（金）

京都府教育委員会表敬訪問
学校交流（京都府立西乙訓高校、京都府立洛西高校、京都府立鳥羽高校、
京都府立山城高校、京都府立城南菱創高校、京都府立桃山高校）

11 月 1 日（土）

ホームビジット（滋賀県日野町）、大阪へ移動

11 月 2 日（日）

A T C エイジレスセンター視察、大阪城見学、商業施設視察、歓送報告会

11 月 3 日（月）

関西国際空港より帰国

3 写真

	
10月26日 オリエンテーション（東京都）	10月27日 藤江正克 早稲田大学理工学術院創造理工学部総合機械工学科教授によるセミナー（東京都）
10月26日 説明会（東京都）	10月27日 早稲田大学理工学術院創造理工学部総合機械工科 藤江正克教授做专题讲座（東京都）
	
10月27日 セミナー質疑応答（東京都）	10月27日 早稲田大学訪問・ロボット研究室視察（東京都）
10月27日 講座提问（東京都）	10月27日 访问早稲田大学・考察机器人研究室（東京都）
	
10月27日 歓迎会 植野篤志外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第一課長挨拶（東京都）	10月27日 歓迎会 日中の高校生ら（東京都）
10月27日 欢迎会上植野篤志外務省亚洲大洋州局中国・蒙古第一课长致辞（東京都）	10月27日 欢迎会上日中高中生合影（東京都）

	
10月28日 渋谷清掃工場視察（東京都）	10月28日 有明清掃工場視察（東京都）
10月28日 考察涩谷清扫工厂（东京都）	10月28日 考察有明清扫工厂（东京都）
	
10月28日 北区防災センター視察（東京都）	10月28日 訪問東京都立大田桜台高校・交流（東京都）
10月28日 考察北区防災中心（东京都）	10月28日 访问东京都立大田樱台高中・交流（东京都）
	
10月28日 東京都立三田高校訪問・交流（東京都）	10月28日 埼玉県立伊奈学園総合高校訪問・交流（埼玉県）
10月28日 访问东京都立三田高中・交流（东京都）	10月28日 访问埼玉县伊奈学园综合高中・交流（埼玉县）

	
10月29日 国会議事堂視察（東京都）	10月29日 金閣寺見学（京都府）
10月29日 考察国会议事堂（東京都）	10月29日 参观金阁寺（京都府）
	
10月30日 嵐山見学（京都府）	10月30日 河村能舞台にて日本文化体験（京都府）
10月30日 参观嵐山（京都府）	10月30日 于河村能舞台体验日本文化（京都府）
	
10月30日 京都国際マンガミュージアム視察（京都府）	10月31日 京都府教育委員会表敬訪問（京都府）
10月30日 考察京都国际漫画博物馆(京都府)	10月31日 拜访京都府教育委员会（京都府）

	
10月31日 京都府立西乙訓高校訪問・交流 (京都府)	10月31日 京都府立洛西高校訪問・交流 (京都府)
10月31日 訪問京都府立西乙訓高中・交流 (京都府)	10月31日 訪問京都府立洛西高中・交流 (京都府)
	
10月31日 京都府立鳥羽高校訪問・交流 (京都府)	10月31日 京都府立山城高校訪問・交流 (京都府)
10月31日 訪問京都府立鳥羽高中・交流 (京都府)	10月31日 訪問京都府立山城高中・交流 (京都府)
	
10月31日 京都府立城南菱創高校訪問・交流 (京都府)	10月31日 京都府立桃山高校訪問・交流 (京都府)
10月31日 訪問京都府立城南菱創高中・交流 (京都府)	10月31日 訪問京都府立桃山高中・交流 (京都府)

	
11月1日 日野町でホームビジット（滋賀県）	11月2日 ATC エイジレスセンター視察（大阪府）
11月1日 日野町家庭訪問（滋賀県）	11月2日 考察 ATC 忘年中心（大阪府）
	
11月2日 大阪城見学（大阪府）	11月2日 歓送報告会（大阪府）
11月2日 参観大阪城（大阪府）	11月2日 欢送报告会（大阪府）

4 参加者の感想（抜粋）

○ 9日間の日本の旅は瞬く間に終わりを告げようとしている。この短い9日間に、私達は多くの収穫を得た。

一番印象深かったのは学校訪問とホームビジットだ。これは日本人と触れ合うまたとないチャンスだった。学校では、日本の学生達が温かくもてなしてくれた。日本の友人もたくさんできた。みんな純粋で、友好的で、素朴で、私達は日常生活のことについて語り合い、互いの生活習慣や勉強の状況の違いに驚き、深い友情で結ばれた。ある女子学生が、「私達の友情をずっと忘れないよ」と言ってくれて、とても嬉しかった。この友情が末永く続くよう願っている。ホームビジットでは、おじいさん、おばあさん、おばさんが温かくもてなしてくれ、寿司や押し花のカレンダーの作り方を教えてくれ、バスの出発を見送りに来てくれた。バスの窓から手を振りながら、みんな泣いていた。

言葉が通じず、交流では困難も多々あったが、互いの真心と人情を感じ、自分の目で違う日本を見て、違う日本を感じ、この清潔で美しい国に好感を抱いた。帰国したら必ず周りのみんなに自分の目で見た日本のことを話し、青年交流の使者としての責任と義務を果たすつもりだ。

○ 日野町のホームビジットで、幸運にもG夫妻と知り合うことができた。Gさんのある一言に私はとても感動した。「日本と中国は地理的には近いが、政府間の関係は疎遠だ。でも民間人はこれまで通り近い関係でいられるし、多くの日本人は中国を尊敬している。両国は師弟関係であり、友人関係でもある。」別れる時、G家の皆さんは私達一人一人と抱き合い、奥さんは涙で頬を濡らしていた。私は感動し、感激し、G家の皆さんに尊敬の念を抱いた。

この9日間に日本で見聞きし、感じたことは、私の日本に対する見方を大きく変えた。若干の歴史問題で両国政府の関係がこじれているかもしれないが、民間関係はこれまで通り深い友情を築くことができる。東京から京都、大阪へ、高校から農村、都市へと移動したが、どこでも日本人の礼儀と好意を感じることができた。農村ではより深く人々の素朴さや誠実さ、住民同士の飾らない関係や仲の良さを感じた。

日本の“細やかな”文化に驚いた。日本は国土は狭いが、どんな隙間も合理的に活用し、僅かな資源でもその良さを活かしている。日常のごみ回収から都市計画まで、取るに足らないマンホールから街並みの構成まで、どこにでもこの特徴が見られる。東京は美しい都市で、京都は中国の古都・西安に似た都市だ。機会があれば、必ずまた日本に来るつもりだ。

もし中国の大らかさと日本の細やかさを組み合わせたら、どんな良さが生まれるだろうと思った。

○ まず、日本に対する見方が大きく変わった。紙面から得られる情報は限られている。中国国内で得られる日本に関する情報には良いものも悪いものもあるが、今回自ら見聞きし、交流して、日本人の良い面をたくさん発見した。東京タワーを見学し、タワーの上から東京の美しい景色と夕日を味わった。早稲田大学の藤江教授のセミナーを受講し、同大学のロボット研究室を見学し、発達した日本の科学技術と日本人の

高齢者に対する思いやりを感じた。渋谷清掃工場を見学し、先進的なごみ処理技術について学んだ。もちろん、まだまだ興味深いことはたくさんあったが、ここでは割愛する。要するに、日本は親切で美しい国なのだ。

○ ホームビジットの日、Y老夫妻と知り合った。この日は日本滞在中で一番楽しい日だったと思う。Yさんの誠実さ、心からの笑顔に、6日間の疲れも吹き飛んだ。一緒に料理をしたり、工作したり、書をしたためたり、片言の中国語と日本語で交流したりした。別れる時、涙が思わず溢れてきた。Yさんがお元気で万事思い通りになるよう願っている。

帰国したら、この数日間見聞きし体験したこと、日本人の親切、日本の良さ、そして日本で体験した全てを仲間に伝えるつもりだ。

日本の美しさを私は忘れない。

○ 今回の訪問中、印象深いことはたくさんあった。まず、日本の環境が素晴らしいことだ。通りではほとんどごみが見られず、緑化面積も広い。訪れた都市は全てそうだった。そのため、空気はきれいで、中国国内で数日スモッグを体験した私達は思わず賛嘆し、感心せざるを得なかった。

次に、学校訪問では、日本の高校生の活発さや明るさに感動した。私達のために心づくしのプログラムを準備してくれ、言葉が通じなくても温かくもてなしてくれ、とても有難く感じた。国語の授業では、李白の《秋浦の歌》という詩と一緒に学んだが、ここで中国の古典詩を勉強するとは思ってもみなかった。隣国としての両国の文化的影響を体感したのは本当に新鮮な経験だった。授業が終わると、みんなデジカメや携帯電話を取り出し、本当に楽しく、まさに打ち解けた様子だった。

最後に、ホームビジットはとても心温まるものだった。現地のおじいさん、おばあさん達が歓待してくれ、私達のためにあれこれと料理やお菓子を準備してくれていて、家のことを熱心に紹介してくれた。一緒に昼食を作ったことは、今でもよく覚えている。今回の訪問は本当に実り多いものだった。

○ 今回の訪問で一番印象深かったことは能の鑑賞だ。それは本当に奥が深く、歴史の長い文化だ。能楽師が数百年前から引き継がれているお面と衣装を見せてくれた時は、すっかり震撼させられた。まるで生きているようなお面の表情に、私達は引き込まれたかのような感覚だった。華やかな衣装も能の高貴さを引き立たせていた。更に、能楽師の力強い演技は、見たこともない魂の鼓動を見せてくれた。能楽師の台詞は理解できなかったが、自分の頭の中には別世界が広がった。だから、能の最大の魅力は、見る人に無限に広がる想像の余地を与えることにあり、永遠に忘れられないのだ、と私は思う。帰国したら友達や周りのみんなに日本のこの神秘的な文化を紹介したい。そして私のように能を好きになってほしい。

訪日日程は間もなく終わるが、中国と同じく美しいこの地に残り、学び、交流を続けたいとどれほど望んでいることか。そうではあっても、私は帰国して日本の美しさを紹介し、日本の文化や科学技術を伝える、中日交流の進歩的使者にならないといけない。ここ数日学んだロボット、能、金閣寺、清水寺等に関する知識を全て周りのみんなに伝

え、彼らにも日本にいるかのように感じてほしい！また日本を訪れ、日本の学生と交流したい！

○ 日本の旅で一番印象深かったのは、日本人の仕事に対する態度と他人に対する親切な態度（又は礼儀）だ。清掃工場を見学した時、ある勤続 40 年のおじさんは、知らず知らず誇らしげな表情になり、自分の仕事に全く引け目を感じていなかった。東京から琵琶湖の温泉旅館まで運ばれたスーツケースは、きれいに旅館のロビーに並べられていた・・・このような些細なことは他にもたくさんあった。

次に、日本の友人の親切について述べたい。訪日初日から、日本人は私達にとっても親切だった。学校訪問では、たくさんの学生が私達と一緒に写真を撮り、連絡先を交換した。日野町のホームビジットでは、日本のおじいさん、おばあさんがたくさんの料理でもてなしてくれ、町を案内してくれた。彼らの親切と熱意を肌身で感じた。両国の民間の友情は途切れてはいない、互いのコミュニケーションと理解が深まれば、中日両国は必ずもっと友好的に、共に発展すると思う！私自身も茶道等、日本特有の文化について友人に話して聞かせたいし、何度も日本を訪れ、そして日本で勉強し、更に深く日本を理解して、友好発展のために微力ながら貢献したい。

○ 一番印象深かったのはホームビジットだ。日本のおじいさん、おばあさんの家で過ごしたほんの僅かな時間が私にとっては一番印象深い。

おじいさんは中国語はできなかったが、英語ができた。家中のほとんどの日用品に英語の注釈が書き込まれていた。この作業は大変だが、おじいさんは一つ一つに書き込んでいた。おじいさんは町の歴史を紹介してくれ、わざわざたくさんの資料を用意して、辛抱強く丁寧に話してくれた。

それから、お祝いの料理でもてなしてくれ、最高の礼節で待遇してくれ、笛の吹き方も教えてくれた。その懸命な姿に、私達も思わず心を動かされた。

帰国したら日本で見聞きしたこと、外国の友人に対する日本人の熱意について積極的に話すつもりだ。

○ 友好交流で一番印象深かったのは、日本の高校生との交流だ。共通の言語がなく、絵を書いて交流した。欧米の音楽について話し、同じ歌手のファンであると知った時、私達は心から興奮した。目から鱗だった。なんと、時差“1時間”の日本にも私達と似たような高校生がいて、自分の夢に向かって頑張っていて、自分の趣味に夢中になり、勉学に励み、幅広く成長しているのだ。私達の友情はきっと続いていくと信じている。

○ 日本の都会の生活では、道路はそれほど混んでおらず、人々の環境保護意識もかなり高い。日本の朝は、多くのサラリーマンがスーツを着て歩くか、自転車に乗って出勤する。環境と精神の両面に対する考慮から、人々の自動車に対する欲求は弱く、環境にやさしい方法で出勤し、仕事をしているのだ。これは私達が学ぶべき点だ。

日本の田舎では、道路は都市とあまり差はない。だが緑が溢れ、家は古風で、精巧な置物が溢れ、庭はきれいに掃除され、装飾もとてもきれいで、彼らの生活を愛おしむ

気持ちが表れている。家では、お年寄りはそれぞれが趣味を持ち、自分に厳しい態度で、或いはとても天真爛漫に、人形や小物を集めている。そこには彼らの生活に対する慈しみ、老いに対する楽観的姿勢が表れていた。

日本の学校生活では、学生達は個人の総合力の成長が重視され、音楽、体育に優れ、授業では物事の根本的な理解を重視し、知識量は十分とは言えないが、実践については更に理解を深めていた。

日本の科学技術分野では、一般的に全て自動化され、人力を最小限にし、国の総合力を高め、効果的に問題を減らして、大学内の研究と清掃工場の自動化でも、科学技術の便利さを体感した。取水装置、車椅子等、小さいものにも科学の力が満ち溢れている。科学技術の力を更に確信させてくれた。

最後に言いたいことは、日本の人々は情熱的で、素朴で、平和と調和を愛しているということだ。私達はみなそう感じている。

○ 日本滞在の9日間はとても楽しかった。

日本の地に足を踏み入れた初日から、初めて日本人と触れ合った瞬間から、突然の敬意とぬくもりに触れ、戸惑いを感じた。到着後の手続きの時、空港の仕事の手順と効率の良さには舌を巻いた。空港を出て、通りを歩いていた時は、清潔な路面、車のタイヤがピカピカなのに驚いた。どれほど資質の高い民族なのかと私は驚かされた。

旅程が進むにつれ、私は日本の科学技術の先進性、普遍性、普及性に気付いた。ほぼどんな所でも、科学技術の結晶を見ることができた。

帰国したら、みんなに日本の文明、文化、科学技術、そして細やかな愛とぬくもりについて伝えるつもりだ。

○ 今回の訪問で一番印象に残ったのはホームビジットだ。当日はあまりよい天気ではなかったが、ホストファミリーの心温まるもてなしに、心がほっこりした。家に着いた時、言葉が通じなかったのも、何を話しているかほとんど分からなかったが、彼らはいつもにこにこ笑顔で面倒をみてくれたので、人と人とのコミュニケーションでは言葉は全く問題にならないのだと感じた。

次に、数多くの講座やセミナーを聞き、数多くの日本文化の理念と昔からの礼儀を理解した。これらはとても印象深く、知識も増えた。帰国したら自分が見聞きしたことを、友人、知人に話すつもりだ。

○ 日本滞在の9日間、3つの都市を巡り、印象深い思い出ができた。

東京では、早稲田大学教授の熱意溢れるロボットのセミナーを聞き、早稲田大学でロボットの視察をした。東京タワーも都市の繁栄と美しさを感じさせた。その後京都に到着、その風貌は非常に印象深く、きらびやかな金閣寺、荘厳な清水寺は京都という都市に親近感を抱かせた。

そして一番印象に残ったのは滋賀県日野町のホームビジットだ。ホストファミリーはとても温かいご家族で、寿司やケーキと一緒に作って、料理の楽しさを体験させてくれた。ホストファミリーとは言葉の壁があったが、彼らの一つ一つの動作から、親しみと魅力が感じられた。

それから大阪の ATC エイジレスセンターでは、改めて日本の知恵と思いやりを感じ、日本の発達した科学技術を見ることができた。

9 日間に見た全てを私は周りのみんなに伝えたい、日本は思いやりがあり、美しく、温かい、そして知恵に満ちた国だということを。中国と日本が互いに交流し、助け合うことを学んでほしい。

○ 9 日間の日本の旅が終わろうとしている今、感無量の思いだ。9 日間は決して短くはないが、より深く日本を理解するには十分ではない。とはいえ、日本はやはり心に深い印象を残した。例えば発達した下水道システム、先進的なロボット、礼儀正しい日本人々、これら全てが私の脳裏に刻まれている。

しかし、一番忘れがたいのは日本の青少年との交流、それから日野町でのホームビジットの一日だ。私達は埼玉県立伊奈学園総合高校と京都府立城南菱創高校を訪問した。両校の学生は全く同じではないが、私達をととても温かく迎えてくれた。言葉の壁があったが、心は強く結ばれ、英語や片言の日本語、或いはボディランゲージでもコミュニケーションができた。日野町での一日はとても楽しかった。親切な O 夫妻が温かくもてなしてくれ、一緒に文化祭に行って茶道を体験したり、昼食を作ったり、折り紙を折ったりして、楽しい一日を過ごした。日本の学校と農村の生活は、私に日本にまた来たいという気持ちを起こさせた。

このほか、日本国民の資質も私達が学ぶに値する。日本到着後、“ありがとうございます”という言葉が日本全体に行き届いていることを肌身で感じた。この数日間付き添って下さった通訳ガイドと先生方に感謝する。今後会える機会も少ないと思うが、再会を密かに期待している。

○ 今回日本政府招聘の中国高校生訪日団で、日本の印象が 180 度変わった。日本についてドラえもんや名探偵コナンなどのアニメしか知らなかったが、今は日本の新幹線、温泉を体験し、日本の伝統芸能の能を見て、ホームビジットを体験した。

世界のどの民族も想像力が豊かで、世界のどの国の伝統文化も多彩で、それぞれの地域の優れた文化を吸収し、自らの文化を発展させる必要があるということが分かった。

学校訪問を通じて、中日両国の青少年は本当に両国交流の使者であり、両国の政府間に何らかの摩擦があったとしても、青少年は国際要務を担い、両国の政府間のわだかまりをなくし、両国の友好発展のために貢献すべきだと感じた。

○ 今回の訪問で一番印象深かったのは、日野町でのホームビジットだ。私のホストファミリーは F さん一家で、とても温かく私達をもてなしてくれた。家に着くと、F さんは早々に準備していた資料を取り出し、言葉は通じなくても、交流はとても楽しかった。F さん一家と一緒に昼食を作り、自分で天ぷらを揚げ、巻き寿司を作った。昼食は御馳走だった。そのあと、小学校の文化祭に行き、茶道を体験し、日本文化の魅力を感じた。F さん是一つ一つの活動を入念に準備してくれていて、とても感動した。私達は F さんからとても手の込んだ小さなプレゼントを頂いた。別れる時になって、とても名残惜しく、もう少し一緒にいたいと思った。帰国したら、自分の体験を知人や友人に話し、客観的に日本を評価し、自分の体験した弓道や茶道などさまざまな伝統文化を共有したい。

また、日本ではごみ分別がきちんと行われていることなど、日本がどれほど発達しているかも話すつもりだ。他にも、日本には私達が学ぶに値するところがたくさんある。この活動で中日間の交流が深まってほしいし、中日関係はますます良くなると信じている。

○ 今回の訪問で一番印象深かったのは、高齢者の福利問題についてだ。

早稲田大学で、まず藤江正克教授の高齢化社会に必要なロボットの研究と開発に関するセミナーを聞いた。藤江教授は日本の高齢化社会の状況と高齢化に対応するロボット、例えば高齢者の歩行を補助するロボット、脳外科手術を補助するロボットを紹介して下さった。続いて、早稲田大学の大学院生が詳しく、辛抱強く説明してくれたおかげで、ある程度理解することができた。それから、ATC エイジレスセンターで高齢者の気持ちを理解し、疑似体験して、車椅子の多くの不便さを身をもって体験した。車椅子について、それまでよく知らなかったが、今回の訪問を通じて、車椅子が絶えず進化し、電力も使われていて、環境にやさしいだけでなく、介助者の負担も軽減していることを知った。

高齢化の深刻な社会では、高齢者の生活の質向上が最も注目すべき問題かもしれない。日本は科学技術の力で、高齢者の体の機能低下から起こる不便をできるだけ減らしている。日本社会の徹底した気配りにより、人々は安心してこの国で生活していけるのだ。病気は高齢者の生活における最大の問題で、小型ロボットが手術のリスクや後遺症をより小さくしている。精神的慰めも高齢者にとって同じく大変重要だ。人と簡単な交流ができるロボットならそれができる。人の体温をまね、外界の異なる刺激に簡単な反応ができる。だから、科学技術は経済発展の促進だけでなく、人の生活の質向上に使うべきだと思う。日本は国民の生活の質を大変重視し、科学技術を発展させることを前提に、科学技術で人々に幸せをもたらしている。この点は学ぶに値すると思う。

○ 今回の訪日で一番印象深かったことは、学校訪問とホームビジットだ。

埼玉県立伊奈学園総合高校の訪問で一番印象深かったことはキャンパスがとても広く、整理整頓が行き届き、とてもきれいで、緑とキャンパスがうまく溶け合い、環境が保護されているだけでなく、キャンパスが美しく整えられていたことだ。伊奈学園総合高校の学生は中国語を勉強し始めて間もないようだったが、みんな中国語を重視し、とても努力していることが分かった。言葉は通じなくても、簡単なボディランゲージと英語で交流できた。何よりも日本語と中国語は多くの共通点があるため、私達の仲はぐっと近くなった。

ホームビジットで出会った高齢でも元気なおじいさん、おばあさんにはとても感動した。私達をまるで本当の孫娘のように接してくれて、言葉は通じなくても互いの心は通じた。感情には国境がない、愛も同じだ。

実際、日本人はそれまで思っていたほど自己中心的ではなく、“搾取”する資本家でもなかった。日本人は他人を大変思いやり、特にお年寄りと障害者をより思いやり、助けている。これにはとても感動した。

機会があれば、また日本に来て、日本の学生やホストファミリーのおじいさん、おばあさんに会って旧交を温めたい！

○ 今回の訪問で一番印象に残ったのは、どこにでも見られる日本人の笑顔だ。機内でも、車内でも、ホテルでも、学校でも・・・どこにでも笑顔があった。その笑顔は温かくて親しみやすく、人をほっとさせると同時に、その笑顔の裏に日本人の礼儀正しさが垣間見えた。

車内では、通訳の先生が毎日素敵な笑顔でみんなに挨拶してくれた。ホテルでは、スタッフが笑顔で頼みごとを解決してくれた。学校では、日本の学生が満面の笑みで話を聞いてくれ、わだかまりなく向学心を持って質問してくれた。ホームビジットでは、おじいさん、おばあさんの笑顔が心を温かくしてくれた。

ホームビジットでは、おばあさんが手取り足取り優しい笑顔で、寿司の作り方や可愛い工芸品の作り方を教えてくれた。ストーブを囲んでお茶を飲みながら、おじいさんとおしゃべりをした。おじいさん、おばあさんは中国語も英語もできなかったけど、言葉の壁は心の交流を妨げることはなかった・・・別れる時、おじいさんもおばあさんも思わず泣いていた。一緒にいた時間は短かったけれど、心は深く繋がっていた。

私が言いたいのは、中日両国は海を隔てた一衣帯水の隣国で、私達は本来手を取り合い、心を通わせるべきで、このような関係を情勢によって途絶えさせてはいけない、ということだ。両国の国民はこれからも友好交流を続けるべきで、双方が笑顔で物事に向き合い、心で感じれば、中日関係はより親密に、より深くなるだろう。